

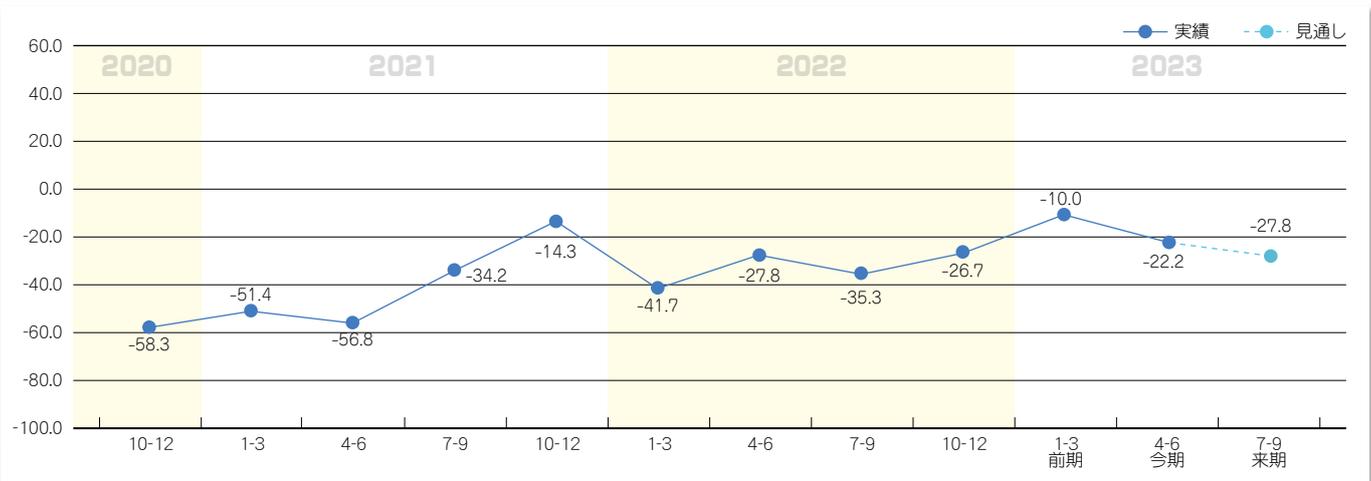


卸売業

回答数36社

今期の業況D・Iは、前期比12.2ポイント低下の▲22.2と悪化。仕入価格やエネルギーコスト上昇に伴う販売価格への転嫁により顧客数が減少し、売上や収益を圧迫したとの声が聞かれた。来期の予想業況D・Iは5.6ポイント低下の▲27.8と、さらに悪化の見通し。売上は改善を見込むが、仕入価格上昇等が利益を圧迫する状況が続く見込み。

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移 (注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



- 依然として仕入価格等が値上がりしており、利益減少が続いている。(食品卸売)
- 電気代等のエネルギーコストや運送費上昇による物流費高騰が利益を圧迫している状況。今後は諸経費増加分を価格改定にてカバーしたい。(石油卸売)
- 価格転嫁により顧客数は減少傾向であるが、採算を重視している。(繊維品卸売)
- 売上は減少傾向。価格転嫁はほぼ実施できているが、賃上げは未だできていない。(土木資材卸売)

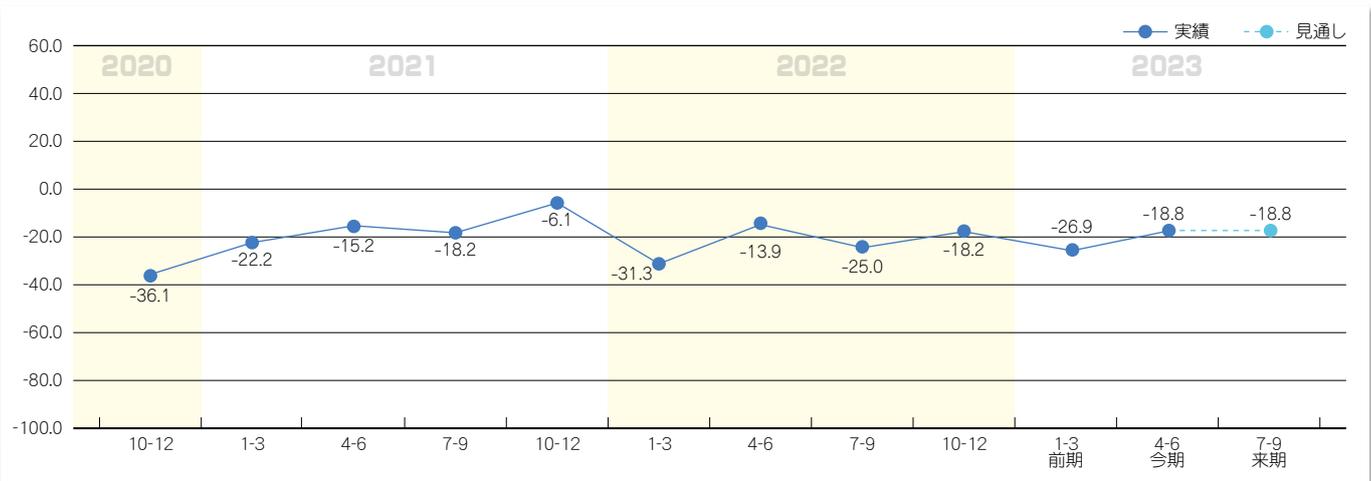


サービス業

回答数32社

今期の業況D・Iは、前期比8.1ポイント上昇の▲18.8と改善。物価高に伴う価格転嫁や生産性向上に向けた設備投資を行うなど売上や収益増強に取り組んでいるが、コロナ禍からの客足の回復や価格転嫁が十分ではないことがうかがえる。来期の予想業況D・Iは▲18.8と横ばいの見通し。先行きに対し厳しい見方をする企業が多いなか、特に他の業種と比べて人手不足を課題とする声が多い。

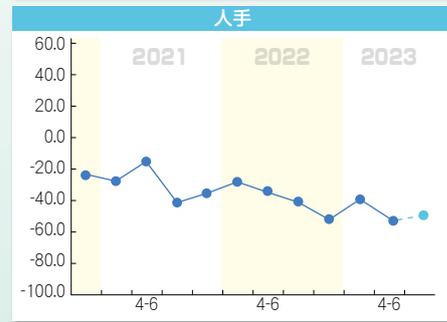
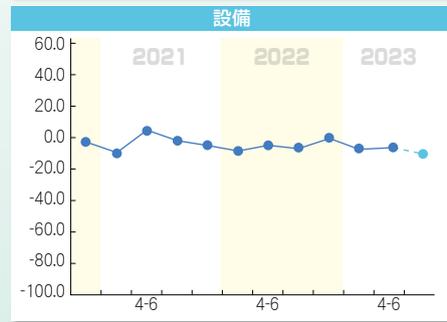
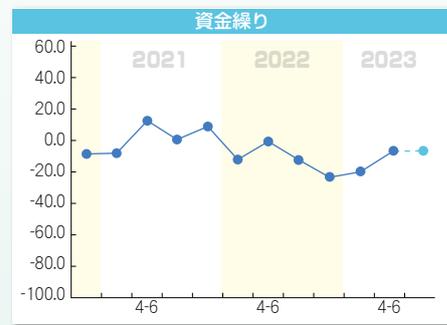
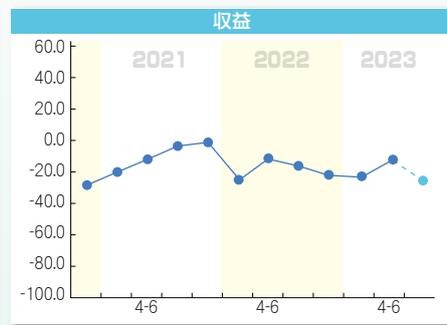
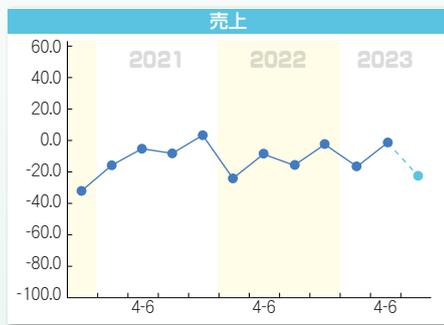
前期実績 今期実績 来期見通し



主要D・Iの推移

(注)設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 受注は確保できているが、人材(特に作業員)不足が課題。早急に採用したい。(自動車整備業)
- コロナ禍から客足は戻りつつあるが、まだ不十分。客足減少が懸念されるため、十分に物価高に伴う価格転嫁ができていない。従業員の育成に力を入れ、受け入れキャパを増やしたい。(美容室)
- 燃料費、原材料費高騰の影響あり。夏頃、新設備導入を計画、新サービス提供による客単価上昇を期待。販管費の見直しによりコストを削減し、従業員の賃上げを行いたい。(クリーニング店)



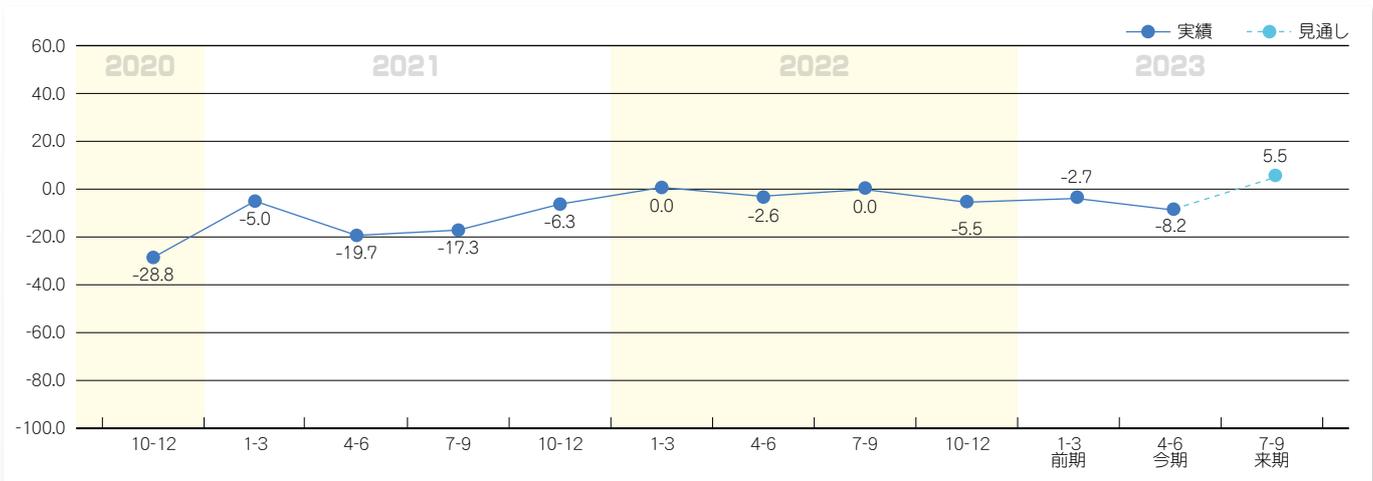
建設・不動産業

回答数73社

今期の業況D・Iは、前期比5.5ポイント低下の▲8.2と悪化。資材価格や地価上昇の影響により、売上が減少し収益を圧迫していることがうかがえる。来期の予想業況D・Iは13.7ポイント上昇の5.5と改善の見通し。新規事業や新規顧客開拓、販路拡大などに取り組んでおり、売上の回復を見込む声が多い。

前期実績 今期実績 来期見通し

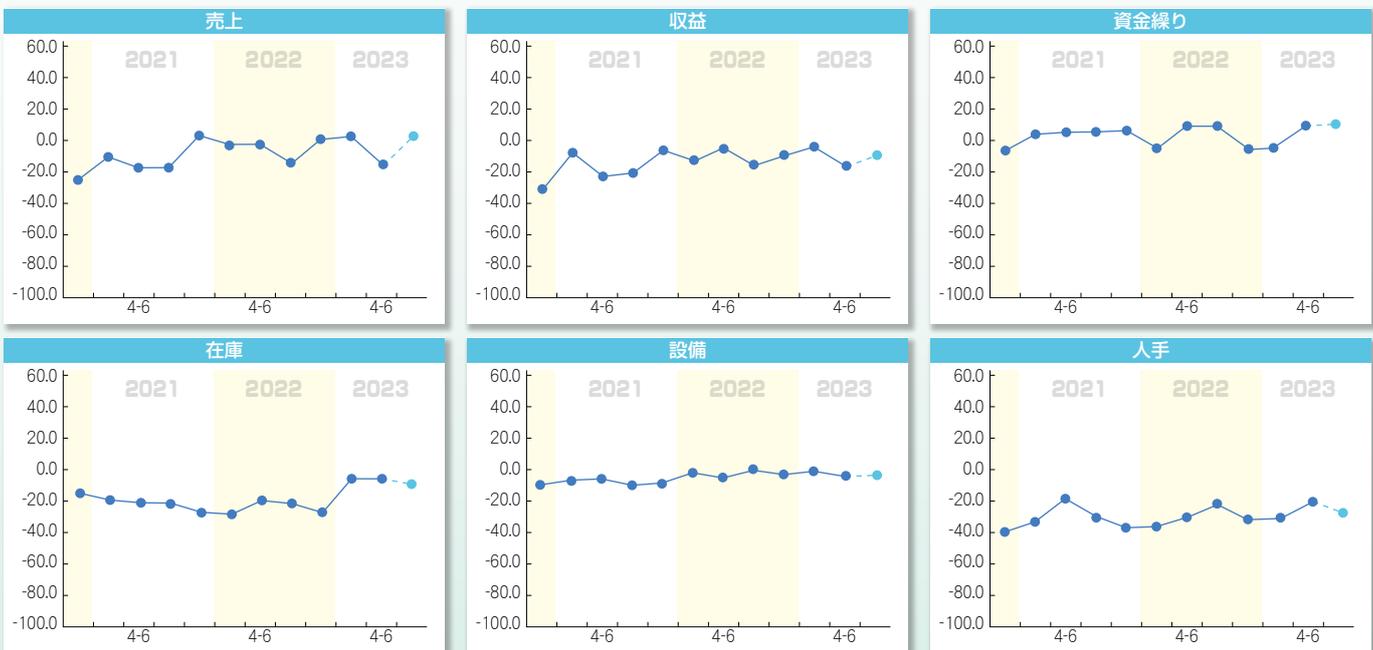
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫/設備/人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 原材料費高騰の影響あり。ある程度は価格転嫁できているが、利益は減少。また、人材の高齢化が課題。(建設業)
- 新事業をGW明けに始動する。本業とのシナジー効果に期待。(住宅建築)
- 新規取引先獲得に向けた営業活動に取り組んでいる。(設備工事業)
- さまざまなネットワーク、広告ツールを通じて販路拡大を図っている。(不動産賃貸)